

NPO法人 新潟水辺の会 ～もっと楽しい美しい水辺の実現に向けて～

安田 幸弘*

1. はじめに

新潟水辺の会は、宮崎駿監修「柳川堀割物語」の上映とシンポジウム開催をキッカケに、大熊孝氏（当時、新潟大学工学部教授）が世話人代表で、新潟県内の水辺環境について考える「新潟の水辺を考える会」として1987年10月15日に発足しました。

ここでは、これまでの活動を通し、新潟水辺の会について紹介をさせていただきます。



写真1 発足のキッカケとなった映画「柳川堀割物語」のポスター

2. 新潟水辺の会の原点

かつての豊かな水辺で育った経験と記憶を基盤に、水辺に想いを熱くしている多様な人々が参加し、ドブ川再生というやっかいな活動を、楽しみながら水の文化や技を掘り起こし、人づくりやまちづくりに取組んでいる「柳川市民のこだわり」が当会の原点です。

当会は、1994年に「考える会」から「汗をかく会」に、2001年に「責任をとれる会」としてNPO法人に脱皮、2002年2月19日新潟県よりNPO法人の認証を受けました。

3. NPO法人としての会の目的

当会は、会員相互の協力や広範な人々との協働によって、水辺に関わる自然、歴史、文化、生活、風俗、福祉、教育、産業、スポーツ、レクリエーション、災害対応、地域安全、国際交流協力並びに科学技術を探り、これからの水辺の望ましい姿を考え、楽しく生き生きとした美しい水辺づくり、水辺使い、水辺育てを行い、地域内外の水辺の環境改善やまちづくりに寄与することを目的としています。

4. 構成会員

会員は県内者が中心ですが、北海道から九州まで（会員の15%）が参加する広範で多彩なメンバーが特色です。大熊孝現新潟大学名誉教授をはじめ建築家、建設及び農業系土木技術者、造園技師、トンボや魚・植物などの植生研究者等の専門家から、主婦、料理人、農業者、税理士、芸術家、写真家、冒険家、現職及び旧職の市や県・国の技術者、ジャーナリスト、漫画家、文化芸術プロデューサー、地方議員、国会議員、市長（新潟市・長岡市）までが会員です。会員数は、個人会員208名、賛助会員10社で、大熊代表以下、副代表3名、世話人（理事）42名、監査2名、事務局スタッフ3名で運営しています。

*新潟水辺の会 世話人

5. 活動の内容

1) 主な活動

「まじめ半分、面白半分で持続できる活動」を軸に、水辺ウォッチング、水辺シンポジウム開催と関連シンポジウムへの参加、水辺学習会、水辺の体験会、水辺の共催イベント活動、水辺考流会、水辺の意見・提言、水辺環境に関する講演、水辺のNPOネットワーク活動、国内外の水辺環境の取材・研究、水辺情報の発信などを行っています。

具体的には、通船川の再生ネットワーク活動（通船川・栗ノ木川下流再生市民会議）への参加、花筏作り、Eボート大会・川舟乗船体験、ラムサール条約登録湿地の佐潟の人と自然の関わりを体験しようとしたハス採り大会、人づくり・水辺づくりワークショップの支援、新潟の水辺環境を守り育てる子どもたちを応援する「にいがたの水辺賞」の贈呈、堀割再生物語支援事業及び他門川の復元についての調査・研究、国内外水辺ツアーの開催、信濃川・千曲川におけるサケ復活、身近な河川の水質調査、川中・川沿いのクリーン活動、川沿いの植樹・草刈などです。また、美しい川の再生研究、学習交流川舟の就航、川塾開催、川の展示ガイド、川のワークショップ、川のセミナー開催、エコマネー実験、水辺のオープンカフェ&マーケット実験等とトキの棲める水辺再生支援、県内各河川上下流連携支援などの事業も進めています。

2) 活動基盤

会員の活動は基本的にボランティアですが、やはり事業としての活動には資金が必要で、以下のような助成基金を活動基盤としています。

- ★95年：(社)北陸建設弘済会基金（「通船川再生手法」の研究）
- ★96年：地球環境基金（ラムサールシンポジウム）
- ★97年：河川整備基金（通船川市民マスタープランづくり）／日本財団（全国トンボサミット記念生物目録）
- ★00年：地球環境基金（イン博）
- ★02年：こしじ水と緑の会（川舟「板合わせ」の復元）
- ★04年：こしじ水と緑の会（全国一斉水質調査）／セブンイレブンみどりの基金（かわ塾）／まちづくり財団（かわ塾）／（財）新潟県環境衛生研究所（かわ塾）
- ★05～08年：こしじ水と緑の会（板合わせ、身近な水環境の全国一斉調査、栗ノ木川桜祭り舟体験&通船川川祭り、新潟県内中小河川へのサケの遡上調査）
- ★07～09年：地球環境基金（水枯れの大河・信濃川にサケの道を拓く）

3) 活動成果（受賞履歴）

96年：新潟県環境賞／97年：地域活性化大賞／98年：地域活性化センター「ベスト会報賞」／99年：第四銀行環境基金、全国川の日ワークショップグランプリ／00：年環境庁地域環境保全功労者賞／03年：新潟市地域環境改善功労者賞



写真2 96' 佐潟でのハス採り大会



写真3 99' つうくり市民会議の一貫
通船川河口ワークショップ



写真4 01' 通船川船上学習会



写真5 02' 川舟（板合せ）の復元



写真6 03' 通船川河口の森づくり



写真7 04' 中之口川夢の水辺づくりWSでの川下り



写真8 03' 萬代橋誕生祭で会旗と川の間答隊のデビュー?



写真9 04' 信濃川オープンカフェ実験



写真10 00' 英蘭仏運河視察ツアー
(イギリス：テムズ川にて)



写真11 04' 韓国水原川交流ツアー



写真12 04' 水辺シンポ、篠田市長と島谷教授他



写真13 06' 早出川清流スクール支援
川遊び体験 (Dカーブづくり)



写真14 05' 栗ノ木川桜祭 (大型カヌー乗船体験)



写真15 06' 栗ノ木川桜祭 (川舟乗船体験)



写真16 05' 通船川川祭り (松崎ニュータウン)



写真17 通船川クリーンアップ (現在も継続)



写真18 01' 花筏プロジェクト共催
山ノ下閘門を通過する花筏
(撮影：高橋正良世話人)

■情報発信：会報「新潟の水辺だより」

<http://www.niigata-mizubenokai.or.jp/>

Email: info@niigata-mizubenokai.or.jp

■事務局：新潟市みずき野4丁目7番15号

大熊研究室内TEL：025-264-3191

6. おわりに

水辺の会の活動は、この20年間で多くのテーマにチャレンジしてきたといえます。しかも、参加しているメンバーは夢を抱き、思いを熱くしている多様な人達が参加しています。しかし、現実としては、活動資金の調達の問題、資金不足により常駐職員の配置ができないこと、実働部隊のメンバーが固定化し、高齢化してきていること、また行政・企業と市民との感覚のズレ及び一般市民の無関心さ等に対するジレンマ、中立を維持しての活動の難しさも感じています。

今後、水辺の会は更なる地域の再生を目指すと共に、自らのランドデザインを作るべく「記憶に残る美しい水辺を創造：水辺の記憶の伝承」をテーマとして活動を展開していきます。そのために、「もっと楽しい美しい水辺の実現に向け」をキャッチフレーズに、「水辺は市民みんなのもの」と位置づけ、「大河からメダカ、ホタルの川まで」を対象に、「水ガキ・川ガキのいる水辺づくり」と共に、地域の親水・環境・水文化（水防も含む）について協働していきたいと考えています。

今回、この寄稿を読み、川や水辺、自然環境に興味を持たれ、参加したいと思われた方は、是非仲間になって一緒に活動してみませんか。

- 以上 -